三木山森林公園

セルフガイドブック

Self Guidebook of Mikiyama Forest Park

兵庫県立三木山森林公園

上池から見た三木山森林公園の風景（コナラ林の紅葉）

はじめに

兵庫県立三木山森林公園では、かつては普通に見られた、「昭和３０年代の東播磨の里地・里山の原風景を公園内に復元」を目指すため、「三木山森林公園生物多様性戦略」を策定し、ツツジが咲きチョウが舞う山道、バッタが飛びオミナエシが咲く草原、メダカが泳ぎトンボが飛び交う水辺などの復元に取り組んで参りました。

このような取り組みを来園者の皆様にご覧いただくと共に、皆様が自ら学べる公園内の生物多様性に関する情報源として、三木山森林公園の「みどころ」や「生き物」の紹介するための「三木山森林公園セルフガイドブック」を作成いたしました。

月に２回発行している「みどころ情報」と共に、来園者の皆様が三木山森林公園を散策する上での一助となれば幸いです。

また、今回発行する「三木山森林公園セルフガイドブック」は、木本と草本に関するものですが、来園者の皆様のご意見を参考にさせていただきながら、内容を追加・見直していく予定です。

兵庫県立三木山森林公園

Mikiyama

地蔵口
福井
中　池
奥　池
(水源池)
ツバキ園
ポケット広場
下池
ススキ草原
ポケット広場
もりの
さんかくばし
きのこ型の
あずまや
二俣の大コナラ
峠
展望休憩舎
どんぐり谷口
県道加古川三田線
三木市浄水場前
野鳥観察施設
茶室（成蹊閣）
森のクラフト館
工作室
広場
香りの道
ユニバーサルトレイル
(車イス、ベビーカー通行できます)
森の研修館
研修室・会議室B

もくじ

Ⅰ 木本類

イチョウ【イチョウ科】…… 1
アカマツ【マツ科】…… 2
ヒマラヤスギ【マツ科】…… 3
スギ【ヒノキ科】…… 4
ヒノキ【ヒノキ科】…… 5
カイヅカイブキ【ヒノキ科】…… 6
ネズミサシ（ネズ）【ヒノキ科】…… 7
メタセコイア【ヒノキ科】…… 8
サネカズラ【マツブサ科】…… 9
タイサンボク【モクレン科】…… 10
ユリノキ【モクレン科】…… 11
カラカネオガタマ【モクレン科】…… 12
コブシ【モクレン科】…… 13
ロウバイ【ロウバイ科】…… 14
クスノキ【クスノキ科】…… 15
ヤマコウバシ【クスノキ科】…… 16
ミツバアケビ【アケビ科】…… 17
モミジバフウ【フウ科】…… 18
カツラ【カツラ科】…… 19
マンサク【マンサク科】…… 20
シナマンサク【マンサク科】…… 21
ヒュウガミズキ【マンサク科】…… 22
アカシデ（ソロ）【カバノキ科】…… 23
コナラ【ブナ科】…… 24
アベマキ【ブナ科】…… 25
ナラガシワ【ブナ科】…… 26
クリ【ブナ科】…… 27
アラカシ【ブナ科】…… 28
シラカシ【ブナ科】…… 29
ウバメガシ【ブナ科】…… 30
スダジイ【ブナ科】…… 31
マテバシイ【ブナ科】…… 32
ヤマモモ【ヤマモモ科】…… 33
アズキナシ【バラ科】…… 34

サクラ属 【バラ科】 …… 35
ウメ 【バラ科】 …… 36
カナメモチ 【バラ科】 …… 37
ケヤキ 【ニレ科】 …… 38
エノキ 【アサ科（ニレ科）】 …… 39
ヤマボウシ 【ミズキ科】 …… 40
サンシュユ 【ミズキ科】 …… 41
アジサイ 【アジサイ科】 …… 42
リョウブ 【リョウブ科】 …… 43
ネジキ 【ツツジ科】 …… 44
モチツツジ 【ツツジ科】 …… 45
コバノミツバツツジ 【ツツジ科】 …… 46
ヒサカキ 【モッコク科】 …… 47
ツバキ 【ツバキ科】 …… 48
サザンカ 【ツバキ科】 …… 49
ソヨゴ 【モチノキ科】 …… 50
タカノツメ 【ウコギ科】 …… 51
コシアブラ 【ウコギ科】 …… 52

Ⅱ 草本類

シャガ 【アヤメ科】 …… 53
ツルボ 【キジカクシ科】 …… 54
ヒメガマ 【ガマ科】 …… 55
ススキ 【イネ科】 …… 56
カワラナデシコ 【ナデシコ科】 …… 57
タヌキマメ 【マメ科】 …… 58
ゲンノショウコ 【フウロソウ科】 …… 59
キツネノマゴ 【キツネノマゴ科】 …… 60
ホトケノザ 【シソ科】 …… 61
オオイヌノフグリ 【オオバコ科】 …… 62
カンサイタンポポ 【キク科】 …… 63
キキョウ 【キキョウ科】 …… 64
オミナエシ 【オミナエシ科】 …… 65

イチョウ

【イチョウ科 イチョウ属】

Ginkgo biloba

見られる場所：エントランス広場、森の小劇場奥のパノラマ道沿い

イチョウ科の植物は氷河期にほぼ絶滅し、現存種はイチョウだけとされている。中国原産とされる裸子植物で、裸子植物であることから葉の形からの印象とは異なり、広葉樹では無く針葉樹とされる。雌雄異株で雌の木に銀杏がなる。銀杏は外皮が悪臭を放つため、街路樹には銀杏がならない雄株のみ植栽されることもある。また、銀杏は適量であれば食用として安全であるが、有毒であることに要注意。都道府県の木として、大阪府、東京都、神奈川県が指定している。

上左：イチョウの黄葉
下左：イチョウの黄葉
上右：イチョウの新葉
下右：黄葉し始めたイチョウ

アカマツ

【マツ科 マツ属】

Pinus densiflora

見られる場所：園内一円

アカマツは、尾根筋など痩せ地に生育する二葉松。樹皮が赤いことからこの名前が付いた。よく似たクロマツ（雄松）に比して葉が柔らかいことから雌松とも呼ばれる。アカマツ林にはマツタケが出る。春に受精し球果は翌年の秋に熟す。マツノマダラカミキリが媒介するマツ材線虫病（松くい虫、松枯れ）が問題になっている。一時に比べて被害は減ってはいるが、無くなってはいない。

上左：アカマツの葉（二葉松）
上右：赤色の樹皮
下左：ヒノキ花粉の飛散が終わった頃から飛び始める花粉
下右：松かさ（種子が飛んだあとの状態）

ヒマラヤスギ

【マツ科 ヒマラヤスギ属】

Cedrus deodara

見られる場所：森の小劇場、下池周辺

ヒマラヤ原産の常緑の針葉樹。背が高く頂点にカラスや猛禽類などの鳥が止まっているのを見かける。ヒノキ科やマツ科などの針葉樹は、春から初夏にかけて花を咲かせることが多いが、ヒマラヤスギは10月～11月頃に咲き、花粉を飛ばして、翌年の秋に球果が熟す。球果は熟すと分解して種子を飛ばす。球果の先端は、バラの花の様で人気がある。マツの仲間で、スギとは関係が無い。ヒマラヤシーダーとも呼ばれる。

上左：ヒマラヤスギの樹形（高いもので、25mになる。）
上右：ヒマラヤスギの球果
下右：ヒマラヤスギの針葉

スギ

【ヒノキ科 スギ属】

Cryptomeria japonica

見られる場所：森の小劇場、森の小劇場の奥のパノラマ道、つつじ尾根

以前はスギ科に分類されていた。スギ属に分類されるのはスギのみ。建築材として重要な樹種であり、多くの挿し木の品種や実生の系統がある。葉の形は立体的で、葉面積の計測が難しい。冬には品種毎に異なった赤褐色に変色する。春に花粉を散布し花粉症の原因となっている。スギカミキリの食害により「ハチカミ被害」が出ることがある。屋久島の縄文杉に代表される様に寿命が長い。

上左：落葉広葉樹林内の単木のスギ
上右：冬には、葉が赤褐色に変色
下　：立体的なスギの葉の形状

ヒノキ

【ヒノキ科 ヒノキ属】

Chamaecyparis obtusa

見られる場所：ドングリ谷口付近

建築材として貴重な樹種であり、神社などの屋根には檜皮（ひわだ）が使われる。スギに比べて成長は遅いが、建築材としての評価は高い。スギと共に人工林として植栽されているが、最近は、ヒノキの花粉症も問題になっている。気孔帯の白いＹ字形が葉の特徴である。11月頃に葉の生え替わりのために、茶色く枯れた葉が目立つ。スギは挿し木品種が多いが、ヒノキは挿し木に向かないため多くの実生の系統が選抜されている。

上左：ヒノキの樹形(樹高30m程度になる。)
上右：ヒノキの樹皮
下右：ヒノキの葉

カイヅカイブキ

【ヒノキ科 ビャクシン属】

Juniperus chinensis

見られる場所：エントランス広場

イブキの園芸品種で、生け垣や庭木として植えられる。海岸近くで生育していたため、塩害や乾燥害に強い。当園では、エントランス広場でクリスマスの電飾や飾りを付ける木として利用している。

上左、上右、下左：丸く仕立てられたカイヅカイブキ
下右：クリスマス用飾りを取り付け中

ネズ（ネズミサシ）

【ヒノキ科 ビャクシン属】

Juniperus rigida

見られる場所：尾根筋を中心に園内一円

堅い葉をネズミの通り道に置いてネズミ除けに使ったことから、ネズミサシ、ネズと名付けられた。盆栽では杜松（トショウ）と呼ばれる。痩せ地（三木山は痩せ地）で生育する。雌雄異株で、雌株には直径8～10mm程度の球形の実が付く。春に花が咲き、翌年又は翌々年の秋に熟し、鳥に食われて種子が散布される。セイヨウネズの実は蒸留酒「ジン」の香り付けに利用される。

上左：ネズミサシの若い球果。熟すと黒紫色になる。（雌株に実がなる。）
右　：ネズミサシの樹形（大きなものは、樹高10m位にはなる。）
下　：ネズミサシの葉（葉は堅く、さわると痛い。）

メタセコイア

【ヒノキ科 メタセコイア属】

Metasequoia glyptostroboides

見られる場所：上池・下池周辺、第1駐車場と第2・第3駐車場の間の林内

化石でしか見られない絶滅した植物とされていたが、1945年中国で生きたメタセコイアが発見されたことから「生きた化石」とも呼ばれる。針葉樹で紅葉する樹木は珍しく、日本でよく見られる樹木では、メタセコイア、ラクウショウ、カラマツがある。メタセコイアとラクウショウの葉は形が良く似ているが、メタセコイアの葉は対生、ラクウショウの葉は互生である点が異なる。当園にあるのは、メタセコイアのみ。上池、下池では、「逆さ富士」ならぬ「逆さメタセコイア」を見ることができる。

左　：上池の逆さメタセコイア
上右：開花前のメタセコイアの雄花（花粉症のもとになるかも）
下右：下池の逆さメタセコイア

サネカズラ

【マツブサ科 サネカズラ属】

Kadsura japonica

見られる場所：もみじ谷の下池側入り口付近、大芝生広場の水路沿い

常緑のつる性の木本。雌雄異株（又は同株）で8月に開花し、11月頃に良く目立つ球形の赤い実を付ける。

昔、樹皮に含まれる粘液を男性の整髪料に使用したことから、別名ビナンカズラ（美男葛）とも呼ばれる。

上　：冬になり、赤く色づいたサネカズラの葉
下　：良く目立つサネカズラの実

タイサンボク

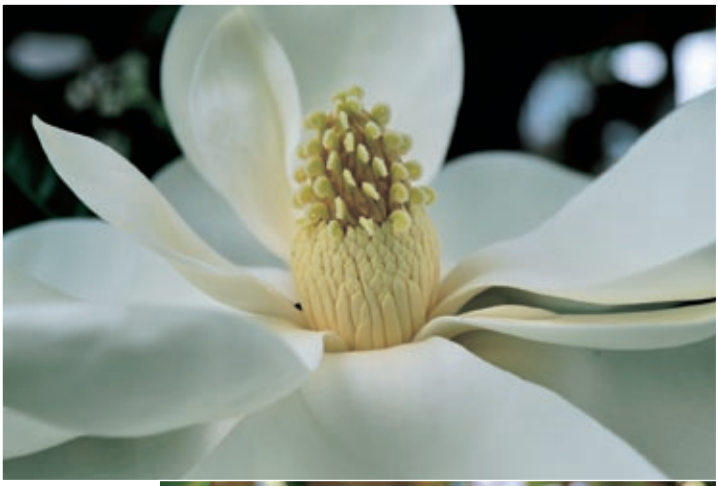
【モクレン科 モクレン属】

Magnolia grandiflora

見られる場所：森の文化館周辺

北アメリカ原産の大きな常緑高木で花期が長い。6月頃に大きな芳香性のある花を次々に開く。9枚の花びら状に見えるのは花被片と呼ばれており、タイサンボクでは萼状ではなくすべて花弁状の形態をしている。

花が大きくて美しく、一つの花の花期は短いが、長期間次々に花が咲くため大変人気がある。



上　：花
下　：花と葉
　　葉の表面は光沢があり緑色をしているが、
　　裏面は毛が密生しており、褐色である。

ユリノキ

【モクレン科 ユリノキ属】

Liriodendron tulipifera

見られる場所：正門入口から第2・第3駐車場までの車道沿い

北米原産で明治時代に渡来した落葉高木。どんどん大きく成長し、樹高が20m以上になることもある。5月～6月頃直径6cm程度のチューリップの様な花を咲かせるが、高い場所で咲くため花を近くから楽しむのは難しい。花の形からチューリップツリー、葉が袢纏（ハンテン）の様な形をしていることから、ハンテンボクとも呼ばれる。葉に斑（ふ）が入る品種もある。

当園のユリノキは植栽されたもの。

上左：黄葉したユリノキ。高木になる。
上右：葉が袢纏（ハンテン）の様な形をしている。→ ハンテンボク。
下　：花がチューリップの様な形をしている。→ チューリップツリー。
　　高木のため、花は通常下側からしか楽しめない。

カラタネオガタマ

【モクレン科 オガタマノキ属】

Michelia figo

見られる場所：香りの道（香りの広場）

中国原産で江戸時代に渡来した常緑小高木。5月頃3cm程度の黄白色で縁が紅色をした花を次々に咲かせる。花は強いバナナの様な香りを発するのが特徴で、普段は地味な樹木であるが、花期には花の香りで強い自己主張をする。

上　：カラタネオガタマの花
下　：カラタネオガタマの花と葉

コブシ

【モクレン科 モクレン属】

Magnolia praecocissima (*Magnolia kobus*)

見られる場所：上池周辺

3月～4月頃葉が開く前に白い花を咲かせる。果実は集合果で、形が握りこぶしに似ていることから「コブシ」と呼ばれる。集合果が熟すと赤い実が出てくる。当園のコブシは植栽木であるが、県内の森林では、この時期コブシではなくタムシバが白い花を咲かせる。コブシは開花と同時に花の付け根に葉を1個出すが、タムシバは葉を出さないことで区別ができる。

上左：コブシの白い花(付け根に葉を１個出す。)
上右：軟毛に覆われた花芽
下左：袋果が集まった集合果。形が握りこぶしに似ている。
下右：裂開して出てきた赤い種子

ロウバイ

【ロウバイ科 ロウバイ属】

Chimonanthus praecox

見られる場所：下池横のツバキ園、茶室

中国原産で江戸時代に渡来した落葉低木。1から2月頃他の花木より早く、葉が出る前に芳香のある黄色い花を咲かせる。花の内側（内側の花被片）は暗褐色。花が大きく内側が黄色いものはソシンロウバイ(Chimonanthus praecox form. concolor)と呼ばれる。花が終わると、3cm程の実（偽果）ができる。名前は花の色が蜜蝋に似ていることによる。

上左、右：開花したソシンロウバイ
下左：ソシンロウバイの実(偽果)(中にそう果が入っている。)
下右：ソシンロウバイの蕾

クスノキ

【クスノキ科 クスノキ属】

Cinnamomum camphora

見られる場所：イベント広場周辺、駐車場周辺、森の研修館周辺

常緑の高木で暖地に自生し、古くから神社仏閣などに植えられ、天然記念物に指定された巨樹もある。春の新葉展開時に古い葉が紅葉して落葉する。5月～6月頃開花し、実は球形で10月～11月頃に熟して黒紫色になる。葉をつぶすと、かつて防虫剤として使われた「樟脳（しょうのう）」のにおいがする。葉脈が3つに分かれる分かれ目に「ダニ室」があり、その中にダニが生息している。昭和41年に兵庫県の県樹に制定された。

上左、右：新葉展開時の古い葉の紅葉
下左：クスノキの若い実
下右：クスノキの熟した実

ヤマコウバシ

【クスノキ科 クロモジ属】

Lindera glauca

見られる場所：エントランス広場の梅林周辺、れんらく道、香りの道

落緑の低木。この樹木の特徴は、葉が枯れても翌年の春に新芽が出るまで枝に枯葉を残すこと。夏の間は目立たないが、他の落葉樹が葉を散らした後は良く目立つ。名前は、枝を折ると良い匂いがすることから付けられた。花は、4月に咲き、その年の10月～11月に黒く熟す。雌雄異株。なぜか日本には雌株しかないとされているが、雄株無しでも結実するらしい。この様なことを考えながらヤマコウバシの実も観察しよう。

上左：ヤマコウバシの紅葉
上右：ヤマコウバシの枯れても枝に残る葉
下左：ヤマコウバシの若い実
下右：ヤマコウバシの熟した実

ミツバアケビ

【アケビ科 アケビ属】

Akebia trifoliata

見られる場所：森の文化館周辺、森の研修館周辺、れんらく道など園内各所

落葉つる性木本。3出複葉であることからこの名が付いた。雌雄同株で雌雄異花。4月に濃紫色の雄花、雌花が咲き、9月～10月頃蝶楕円形の実ができる。熟すと紫色を帯びて縦方向に裂け、裂けたところには白い果肉と黒い種が見えて食用になる。

属名の【Akebia】は、日本名の「アケビ」から付いた。

上左：雌花（上部の大きな萼片が3個ある花）と雄花（下部に集まっている花）
上右：若い実
下左：裂開した実
下右：裂開が進み、種が見えた実

モミジバフウ

【フウ科 フウ属】

Liquidambar styraciflua

見られる場所：イベント広場、ウッディ広場、下池周辺

北米、中米原産の落葉高木。晩秋、鮮やかに紅葉する。雌雄同株、雌雄異花で、雄花と雌花が別々に４月頃咲く。実は集合果で、機雷の様なおもしろい形をしており、工作の材料として人気がある。枝にはコルク質が発達した翼ができる。名前は、「葉の形がモミジに似たフウ」という意味である。モミジは対生だが、モミジバフウは互生であることから、また、実の形が全く異なることからもモミジバフウはモミジ（ムクロジ科）の仲間ではないことが分かる。別名アメリカフウ。

上左：モミジバフウの鮮やかな紅葉
上右：モミジバフウの花　上部にあるのが雄花序、下向きに垂れているのが雌花序
下左：モミジバフウの実
下右：モミジバフウの球果を使った工作の例。開いている穴に種子が入っていた。

カツラ

【カツラ科 カツラ属】

Cercidiphyllum japonicum

見られる場所：上池谷入口付近（森の文化館音楽ホール横）

渓流沿いの水が多い場所に生育する落葉高木。大きな物は樹高30mに達し、県内では、糸井の大カツラ（朝来市和田山町）、兎和野の大カツラ（美方郡香美町村岡区）、和知の大カツラ（美方郡香美町村岡区）などが有名である。雌雄異株。葉が展開する前に開花する。葉はハート形で判別しやすく、黄葉した(11月頃)葉や落葉は甘い香りがする。

11月頃に黄葉するカツラ。黄葉時期には、葉や落葉は、甘い香りがする。

マンサク

【マンサク科 マンサク属】

Hamamelis japonica

見られる場所：エントランス広場

落葉の低木。早春に最も早く葉が展開する前に花を咲かせる樹木の一つとして注目される。花弁は線状で4本ある。名前は枝いっぱいに花を咲かせることから満作とついた。葉は、秋に黄葉する。

近年、森林学会などで、マンサクの葉が枯れる病気が話題になった時期があったので、今後も注目する必要がある。

上　：マンサクの花を近くで見る。
下左：葉が出る前に咲くマンサクの花。
下右：雪をかぶったマンサクの花

シナマンサク

【マンサク科 マンサク属】

Hamamelis mollis

見られる場所：エントランス広場

中国原産の落葉小高木。1月～3月頃マンサクよりも早く花を咲かせる。花弁は黄色く線状で4本ある。葉は秋に黄葉するが、マンサクと違い翌年の花の時期まで散らずに残ることがある。

上　：シナマンサクの花
下左：今にも咲きそうなつぼみ
下右：満開のシナマンサク

ヒュウガミズキ

【マンサク科 トサミズキ属】

Corylopsis pauciflora

見られる場所：茶室、もみじ谷の下池側の入り口付近

落葉低木で、当園のものは植栽木。早春の3月～4月頃、葉の展開前に淡黄色の花を1～3個咲かせ、花弁の先から黄色の雄蕊（おしべ）の葯がのぞく。トサミズキ属の中では最も小形の花である。

上　：葉が展開する前に花が咲く。
下左：葉が展開し始める時期の花。
下右：花弁の先から黄色の雄蕊の葯がのぞく。

アカシデ（ソロ）

【カバノキ科 クマシデ属】

Carpinus laxiflora

見られる場所：エントランス広場、森の研修館周辺

当園のアカシデは植栽されたもの。開花は葉の展開と同時で雌雄同株。雌花は枝の先に付き、雄花は尾状に垂れ下がる。8月～9月頃10cm位の果穂（かすい）が垂れ下がり、熟した果苞は赤みが強くてまばら。アカシデの「アカ」は、新芽が赤いことと、紅葉することから付けられた。

上　：アカシデの紅葉し始め
下左：アカシデの雌花（右側中央付近）と雄花（左側）
下右：アカシデの熟した果穂（かすい）。花苞は褐色に変化する。

コナラ

【ブナ科 コナラ属】

Quercus serrata

見られる場所：園内一円

園内一円で見られる落葉広葉樹。高木に成長する。シイタケの原木栽培に使われ、薪や炭の原材料になる。燃料革命以前は重要な燃料源で、繰り返し伐採されても萌芽更新により再生していた。コナラのドングリは来園の子ども達に大変人気がある。豊凶の差が大きく、全くドングリがならない年もある。

上左：ドングリからの芽生え
上右：若いドングリ
下　：コナラ林の紅葉

アベマキ

【ブナ科 コナラ属】

Quercus variabilis

見られる場所：下池周辺、ドングリ谷

コナラに比べ、樹皮がゴツゴツしており、その下にコルク層が発達している。樹皮を押して見て、どんな風に感じるか試してみよう。ドングリは丸い。春に雄花・雌花が咲き、その翌年の秋に熟してドングリが出来る。三木山森林公園では、丸いアベマキのドングリに軸を通してドングリゴマ大会のコマとして使用している。

上左：若いドングリ
上右：熟したドングリ
下　：特徴ある樹皮（下にコルク層が発達している。）

ナラガシワ

【ブナ科 コナラ属】

Quercus aliena

見られる場所：エントランス広場、もみじ谷

葉は三木山森林公園には無いミズナラやカシワに似ており、コナラと比べて大きい。葉柄は、ミズナラやカシワよりも長い。春に花が咲き、その年の秋にドングリが熟す。

エントランス広場のナラガシワは、観賞用に植栽したもの。

上　：ナラガシワの大きな葉
下左：冬芽
下右：若いドングリ

クリ

【ブナ科 クリ属】

Castanea crenata

見られる場所：園内一円

ブナ科シイ属と同様に虫媒花であるため、雄花は強い香りを発する（シイ属、クリ属以外のブナ科植物は風媒花）。実は、長い刺があるイガにつつまれる。園内で自生しているクリはシバグリで、栽培栗と比べて実（堅果）が小さいが味は良い。栽培栗生産地としては、近くでは、「丹波栗」が有名である。栽培栗には、多くの品種がある。日本の栗はシナ栗に比べて渋皮が剥きにくい。クリタマバチ被害が問題になった。

上左：クリの雄花
中左：若いクリの実（イガに包まれている）
下右：クリの実（堅果）

アラカシ

【ブナ科 コナラ属】

Quercus glauca

見られる場所：園内一円

山に普通に自生しているカシで、単に「カシ」とも呼ばれる。樹皮は黒っぽい。春に受精後、ドングリはその年の秋に熟す。人手を入れずに落葉広葉樹林（三木山では主にコナラ林）を放置すると、林床にアラカシやシラカシが育ち始め、常緑広葉樹林に遷移していく。アラカシは、コナラ林でも比較的よく見られる。

上左：新しい葉（4月）
上右：成長した葉
下左：雄花（4月）
下右：若いドングリ（10月）（受精したその年の秋にドングリが成熟する。）

シラカシ

【ブナ科 コナラ属】

Quercus myrsinifolia

見られる場所：下池周辺、駐車場周辺

よく植栽されているカシで、樹皮は黒っぽいが、材が（アカガシに比べて）色が淡く白っぽいので「シラカシ」と呼ばれる。アラカシに比べて、葉が小さく、鋸歯は浅い。

春に受精後、ドングリはその年の秋に成熟する。

上　：シラカシのドングリ
下左：シラカシの若いドングリと細い葉
下右：シラカシの若いドングリ

ウバメガシ

【ブナ科 コナラ属】

Quercus phillyraeoides

見られる場所：下池周辺、駐車場周辺、研修館、バーベキュー広場

常緑の広葉樹で、海岸林を構成する代表的な樹種である。カシ類の中では、比較的葉が小さくて堅い。和歌山県の県木で、ウバメガシから火力が強く火持ちが良い「備長炭（びんちょうたん）」ができる。刈り込みや乾燥に強く、街路樹や生け垣にもよく使われる。

春に受精後、ドングリは1年目にはあまり成長せず、2年目の秋に成熟する。

上左：ウバメガシの雄花（4月下旬）
上右：1年目のウバメガシのドングリ（1月下旬の状況）
下　：2年目の若いドングリ（10月下旬の状況）

スダジイ

【ブナ科 シイ属】

Castanopsis sieboldii

見られる場所：エントランス広場周辺

シイというと普通は、スダジイのことである。ブナ科クリ属と同様に虫媒花であるため、雄花は強い香りを発する（シイ属、クリ属以外のブナ科植物は風媒花）。ドングリは、初めは、殻斗（カラ）に包まれているが、成熟すると、殻斗の先端が3裂し、中からドングリが現れる。ドングリは、春に受精後、翌年の秋に成熟する。ドングリは、アク抜き不要でそのまま食べられる。煎って食べると香ばしい。

上左：スダジイが満開（5月上旬）
上右：雄花（5月中旬）
下左：1年目のスダジイのドングリ（1年目の7月上旬）
下右：2年目のスダジイのドングリ（2年目の10月の上旬）

マテバシイ

【ブナ科 マテバシイ属】

Lithocarpus edulis

見られる場所：上池周辺

常緑の広葉樹で、公園樹や街路樹などに使われることが多い。日本のマテバシイ属の樹木は、マテバシイとシリブカガシの２種類である。葉に鋸歯は無く、全縁である。

ドングリは、長細い形をしており、渋みが無く食用になる。また、受精後２年かけて、翌年の秋に成熟する。当園のマテバシイも植栽木である。

上　：マテバシイの葉と雄花
下　：マテバシイの若いドングリ このドングリは受精翌年の秋に成熟する。

ヤマモモ

【ヤマモモ科 ヤマモモ属】

Morella rubra (*Myrica rubra*)

見られる場所：園内各所（特に、ヤマモモの辻、やまもも尾根、つつじ尾根）

6月頃直径2cm程度の球形の紅から暗赤色の実がなる。実が桃に似ているためこの名が付いた。加工してジャムにもなる。木から取った実は甘酸っぱくておいしいが、食べた後口の回りが真っ赤になる。雌雄異株なので、雌株にしか実ができない。葉の鋸歯は目立たないが、若い木の葉には不規則な鋭い鋸歯があるので、他の木の葉と間違えやすい。また、葉はホルトノキ（園内にはない。）と良く似ている。肥料木としても植栽される。

上左：雌株の雌花（4月）
上中：雄株の雄花（4月）
上右：熟した実（7月）
下左：葉の形（ホルトノキに似た形をしている。）
下右：樹形と樹皮

アズキナシ

【バラ科 アズキナシ属】

Aria alnifolia

見られる場所：茶室、もみじ谷野鳥観察施設、もみじ谷上流部など

落葉高木で、5月頃枝先に白い花を咲かせる。10月～11月頃実が赤く熟す。初めは葉で見えにくいが、葉が散ると赤い実が鮮やかに見える。名前は、実が梨に似ていて小さいため名付けられた。別名「ハカリノメ」は、枝の皮目（ひもく）を「秤の目盛」に見立てたもの。以前は、ナナカマド(Sorbus)属であった。

上左：白い花が満開のアズキナシ
上右：アズキナシの花のアップ画像
下左：きれいに紅葉する。
下右：紅葉が済んで落葉後は、赤い実が鮮やかに見えるようになる。

サクラ属

【バラ科 サクラ属】

Cerasus

見られる場所：茶室、エントランス広場、香りの道、下池周辺、ウッディ広場等

落葉高木で、春に開花する。三木山森林公園には、カスミザクラ（茶室、エントランス広場）、ヤマザクラ（園内森林各所）、エドヒガン（下池周辺、エントランス広場）、ソメイヨシノ（ウッディ広場）などのサクラが見られる。ソメイヨシノはクローンだが、カスミザクラ、ヤマザクラ、エドヒガンは実生であるため、変異が大きい。例えば、花がピンクや白のエドヒガンがある。

上左：カスミザクラ　花柄や葉柄などに毛があるものが多い。ヤマザクラより花期が遅い。
上右：ヤマザクラ　花柄や葉柄などに毛が無い。
下左：エドヒガン　萼筒がふくれるのが特徴。
下右：ソメイヨシノ

ウメ

【バラ科 広義のスモモ属】

Prunus mume

見られる場所：エントランス広場

中国原産の落葉小高木で、春２月～３月頃、白色、紅色、淡紅色の花が咲く。６月頃、球形の果実が実る。実は梅干しや梅酒、ジャムなどに加工して食用にすることが多い。花には芳香がある。

上　：白梅とメジロ
下　：紅梅

カナメモチ

【バラ科 カナメモチ属】

Photinia glabra

見られる場所：れんらく道、二俣の大コナラ付近

常緑小高木で、5月～6月頃に白い小さな花を多数付け、12月頃に赤い実が熟す。生け垣に使われる。生け垣には、新芽の赤みが際だつレッドロビンという園芸品種が使われることが多い。（レッドロビンは、カナメモチとオオカナメモチの雑種。）

上　：赤い若葉
下　：12 月頃実が赤く熟す

ケヤキ

【ニレ科 ケヤキ属】

Zelkova serrata

見られる場所：森の研修館、イベント広場、エントランス広場

当園のケヤキは植栽されたもの。大木になり、扇形の樹形はケヤキ独特。雌雄同株で、葉の展開と同時に4～5月頃開花するが、雌花も雄花も大木にしては大変小さく、近くで見る機会が少ない。10月になると実が熟すが、花と同様に実も小さく目立たない。秋の黄葉は美しく、特に扇形の樹形が見せる黄葉は樹形と黄葉が二重に楽しめる。台風による葉の脱水症状が美しい黄葉の大敵である。

上、下左：ケヤキの黄葉　秋になると赤や黄色に黄葉するが、色は個体による変異が大きい。
下右：ケヤキの若い実

エノキ

【アサ科（ニレ科） エノキ属】

Celtis sinensis

見られる場所：森の文化館周辺、大芝生広場周辺、エントランス広場

当園のエノキは植栽されたもの。葉は日本の国蝶であるオオムラサキの幼虫の餌になる。大木になり、雌雄同株で4月～5月頃葉の展開と同時に雄花と両性花が開花する。実は秋に6mm程度の球形に結実し、最初は黄色で熟すと赤褐色になる。実は小さいが甘くて食べられる。秋の黄葉は大変美しい。

上　：エノキの見事な黄葉
下左：エノキの黄葉初期
　　根元にエノキの幼虫が越冬するための落葉を入れる囲いを設置。
下右：エノキの実

ヤマボウシ

【ミズキ科 ミズキ属】

Cornus kousa

見られる場所：茶室、イベント広場

5月から7月頃に咲く花の花びらのように見えるのは、「総苞片（そうほうへん）」で、総苞片の中心に小さな花が多数つく。満開時は、遠くからでも良く目立つ。総苞片が紅色になるものもある。

上左：満開のヤマボウシ。総苞片に一部赤い色が混じっている。
上右：満開のヤマボウシ
下左：総苞片の中心部に多数の花が密集している。
下右：若い果実。赤い色が付き始めている。

サンシュユ

【ミズキ科 ミズキ属】

Cornus officinalis

見られる場所：エントランス広場

中国原産の落葉小高木。3月～4月頃の葉が出る前に淡黄色の花が開花する。春の花の少ない時期によく目立つ。

赤い果実（長さ1cm程度）が9月～11月に熟し、美しい。生食はしない。

上左：満開のサンシュユ
上右：淡黄色の花を多数付ける
下左：花が咲く前の花芽
下右：秋に熟す良く目立つ赤い実

アジサイ

【アジサイ科 アジサイ属】

Hydrangea macrophylla

見られる場所：れんらく道、もみじ谷

落葉低木で、6月～7月の梅雨の時期に咲く。ガクアジサイ（ガクアジサイでは密集した両性花の周りに装飾花が見られる。）の花全体が装飾花に変化したものがアジサイである。繁殖は挿し木による。アジサイは有毒植物であるため、取扱いには注意が必要。

上左、右：ガクアジサイ　密集した両性花の周りに装飾花が見られる。
下左：アジサイ　すべての花が装飾花になっている。
下右：園芸品種で人気がある「アナベル」

リョウブ

【リョウブ科 リョウブ属】

Clethra barbinervis

見られる場所：園内一円

園内一円で見られる落葉高木で、夏（6月～8月頃）に白い小さな花を多数付け、花の少ない時期に一面真っ白になり良く目立つ。樹皮が古くなってはがれ落ちたあとの模様は「ナツツバキ」や「サルスベリ」の樹皮の模様に似ている。新芽は山菜として利用される。材は白くて美しいので、木工クラフトで使用する。

上左：リョウブの白い花
上右：リョウブの白い花と樹形
下左：リョウブの新葉（新芽は山菜として利用）
下右：樹皮がはがれ落ちた後の模様（ナツツバキやサルスベリの樹皮に似ている。）

ネジキ

【ツツジ科 ネジキ属】

Lyonia ovalifolia

見られる場所：園内森林の尾根部

落葉小高木で、園内森林の乾燥した尾根部でよく見られる。幹がねじれる特徴があり、名前はそこから付いた。新しい枝は赤味を帯びて美しい。5月～6月頃に前年枝の腋から総状花序を出し、下向きで壺形の白い花を多数付けてよく目立つ。アセビ属のアセビと同様に有毒植物なので要注意。

上左：壺形の白い花(5月)
上右：名前の由来となった樹皮のねじれ
下左：若い実(9月)
下右：熟した実(12月)

モチツツジ

【ツツジ科 ツツジ属】

Rhododendron macrosepalum

見られる場所：園内一円（特に、ツツジ尾根などに多い。）

4月～6月頃、葉の展開と同時に淡紅紫色の花を咲かせる。花の上側に深紅色の斑点が見られる。花、萼（がく）、若い枝などに腺毛があって粘液を分泌するため、鳥もちの様なことから「モチツツジ」とよばれる。個体によっては、花の時期以外に開花する（狂い咲き）ことも多い。

上左：モチツツジの花。花の上部に深紅色の斑点が見られる。
上右：モチツツジの花の付き方。
下左、下右：秋や冬などの開花時期以外にも花が咲くことがある。

コバノミツバツツジ

【ツツジ科 ツツジ属】

Rhododendron reticulatum

見られる場所：園内一円（特に、ツツジ尾根に多い。）

3月下旬～4月頃の、葉の展開前に紅紫色の花が咲くため、良く目立つ。葉が枝先に3枚輪生する。毎年早く咲く個体とゆっくり咲く個体がある。春の三木山森林公園で大変人気がある花である。

上左、上右：満開のコバノミツバツツジ
下　：反射光（順光）（左側）、で見ても、透過光（右側）で見ても美しい。

ヒサカキ

【モッコク科 ヒサカキ属】

Eurya japonica

見られる場所：園内一円

常緑小高木。耐陰性が強く、森林の林床に普通に見られる。雌雄異株で、花は3月～4月頃に咲き、漏れた都市ガスの様な臭気がする。枝のまま煮出すと「ヒサカキ茶」が楽しめる。関東地方ではサカキの代わりに神事に使う。

上左：葉の形状（ふちに浅い鋸歯がある。）
上右：雄花（漏れた都市ガスの様な臭気がある。）
下　：ヒサカキの樹形

ツバキ

【ツバキ科 ツバキ属】

Camellia

見られる場所：エントランス広場、下池横のツバキ園、香りの道

常緑の高木又は低木。園内では野生のヤブツバキ（Camellia japonica）や観賞用の園芸品種が見られ、サザンカより遅めの12月～4月にかけて開花する。果実は裂果して種子が現れる。種子から椿油をとる。サザンカとの区別については、花が散るときサザンカは花弁と雄しべはばらばらに散るが、ツバキは萼と雌しべだけを木に残して丸ごと落ちる点が異なる。

上左：ヤブツバキの花
上右：ツバキの若い実
下左、右：サザンカと異なり、花がばらばらにならずに落下する。

サザンカ

【ツバキ科 ツバキ属】

Camellia sasanqua

見られる場所：森の研修館、茶室、香りの道、大芝生広場、第３駐車場付近

常緑の高木又は低木。花が赤いもの、白と赤が混じっているものなど多くの品種がある。ツバキより早く10月～12月頃開花する。果実は熟すと裂果して黒褐色の種子を出す。ツバキとの区別については、花が散るときサザンカは花弁と雄しべはばらばらに散るが、ツバキは萼と雌しべだけを木に残して丸ごと落ちる点が異なる。

種小名が「サザンカ」【sasanqua】である。

上左：満開のサザンカ
上右：メジロがサザンカに来て、吸蜜している。
下　：色々なサザンカ

ソヨゴ

【モチノキ科 モチノキ属】

Ilex pedunculosa

見られる場所：園内一円

常緑小高木で、園内一円でよく見られる。常緑樹であるため「冬青」とも言われる。葉が風にそよいで音をたてることから「ソヨゴ」と呼ばれる。葉は全縁で波打っている。雌雄異株。雌花、雄花とも長い柄があり、花弁は４～５個ある。小さい花で目立たないが、よく観察すると美しく感じる。実は熟すと赤くなり良く目立つ。根が浅いため、台風後に根こそぎ倒れているソヨゴをよく見かける。

上左：ソヨゴの雌花（5 月）
上右：ソヨゴの雄花（5 月）
中左：ソヨゴの実（11 月）
中右：ソヨゴの樹形と実
下　：ソヨゴの樹皮

タカノツメ

【ウコギ科 タカノツメ属】

Gamblea innovans

見られる場所：園内一円

落葉小高木。園内一円でよく見られる。冬芽が鷹の爪に似ていることからこの名前が付いた。葉は3出複葉だが、まれに単葉のものも見られる。雌雄異株。5月～6月頃花弁が4個の花を付け、9月～10月頃黒く熟した実を付ける。黄葉が透ける様な黄色で透過光（逆光）で観察すると大変美しい。新芽は山菜として好まれる。

上左：新葉（4月）
中左：雌花（5月）
下左：黄葉したタカノツメの樹形（12月）

上右：薄く透ける様な黄葉（11月）
中右：雄花（5月）
下右：半分熟した実（8月）

コシアブラ

【ウコギ科 ウコギ属】

Eleutherococcus sciadophylloides

見られる場所：園内一円

落葉高木。園内一円で比較的よく見られるが、タカノツメ程見られるわけでは無い。名前は、樹脂をとり漉して塗料としたことから付いた。葉は５枚の裳状複葉。雌雄異株。８月～９月頃花弁が５個の花を付け、10月～11月頃黒く熟した実を付ける。黄葉はタカノツメに比べると白っぽく、透過光（逆光）で観察すると美しい。新芽は山菜としてタカノツメよりも好まれる。

上　：黄葉（タカノツメよりも白っぽい）（11月）
下　：若い実（熟すと黒くなる。）（10月）

シャガ

【アヤメ科 アヤメ属】

Iris japonica

見られる場所：もみじ谷

4月～5月頃、白紫色の花が咲く。帰化植物で観賞用として導入された後、野生化した模様である。三倍体のため果実はできない。木陰でやや湿ったところで生育していることが多い。

シャガの花

ツルボ

【キジカクシ科 ツルボ属】

Barnardia japonica

見られる場所：香りの道

日当たりの良い草地等に生える多年草で、8月～9月頃に総状花序に淡紫色の多数の花をつける。葉は春と秋に2回出るが、秋の葉の間から花序を出す。花は良く目立つ。

ツルボのつぼみと花

ヒメガマ

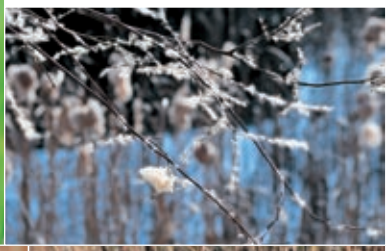
【ガマ科 ガマ属】

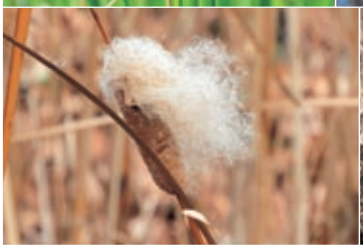
Typha domingensis

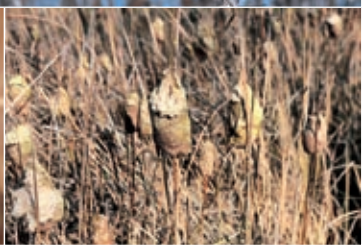
見られる場所：上池、下池、ススキ草原周辺の小川

6月～8月頃花を咲かせる。花茎の上部に雄花穂が、下部にはウインナーソーセージの様な雌花穂が咲く。各花群の間にはすき間がある。

ガマの穂は成熟すると、タンポポの様な綿毛ができて、風に乗って種子を遠くまで飛散させる。







上左：ヒメガマの花穂　上部が雄花穂、下部が雌花穂
上右：ヒメガマの綿毛が付いて雪が積もった様になっている。
下左、下右：熟した穂と綿毛

ススキ

【イネ科 ススキ属】

Miscanthus sinensis

見られる場所：ススキ草原、チガヤ草原、イベント広場、第3駐車場周辺

尾花、かや（茅、萱）とも呼ばれる。日当たりの良い場所に普通に見られる。花期は、7月～10月頃。古民家の茅葺屋根の材料とされる。

各地でススキと帰化植物のセイタカアワダチソウとの勢力争いがなされている。最近では、ススキが優勢になりつつある現場が多そうである。秋の七草の一つ。

上左、上右：ススキ草原
下左：刈り払い後のススキ草原と乾燥中のススキ（かや）
下右：刈り払ったススキ（かや）で作った「秘密の隠れ家」

カワラナデシコ

【ナデシコ科 ナデシコ属】

Dianthus superbus

見られる場所：ススキ草原、チガヤ草原、下池周辺、香りの道

日当たりの良い草原で生育する多年草。7月～10月頃に淡紅紫色の花が咲く。
秋の七草の一つ。別名はナデシコ、ヤマトナデシコ。

カワラナデシコの花

タヌキマメ

【マメ科 タヌキマメ属】

Crotalaria sessiliflora

見られる場所：ススキ草原、チガヤ草原

夏から秋にかけて、青紫色の花を咲かせる。果実を包む毛と花が獣の顔のイメージであることから「タヌキマメ」という名前がついたとされている。可愛く、よく目立つ植物である。

可愛いいタヌキマメの花

ゲンノショウコ

【フウロソウ科 フウロソウ属】

Geranium thunbergii

見られる場所：大芝生広場、もみじ谷

7月～10月頃に紅紫色又は白い花を咲かせるが、三木山森林公園では紅紫色の花のみ確認できる。下痢止めに有効で、すぐに効果が表れることから「現之証拠（ゲンノショウコ）」と名付けられたとのことである。

ゲンノショウコの花

キツネノマゴ

【キツネノマゴ科 キツネノマゴ属】

Justicia procumbens

見られる場所：大芝生広場、もみじ谷

8月～10月頃に淡紅紫色の小さな唇形花（しんけいか）を咲かせる。この属の植物で、日本にあるのは本種だけである。ちいさな花なので目立たないが、よく見ると可憐な花である。同じ科の園芸植物にアカンサス・モリス（キツネノマゴ科ハアザミ属Acanthus mollis）があるが、花は巨大である。

キツネノマゴの花

ホトケノザ

【シソ科 ホトケノザ属】

Lamium amplexicaule

見られる場所：大芝生広場

3月～6月頃に紅紫色の唇形花（しんけいか）を咲かせ、遠くからも良く目立つ。春の七草で有名な「ホトケノザ」は、別の植物（キク科ヤブタビラコ属のコオニタビラコ(Lapsana apogonoides)）である。

ホトケノザの花

オオイヌノフグリ

【オオバコ科 クワガタソウ属】

Veronica persica

見られる場所：大芝生広場、エントランス広場、イベント広場等の草原

ヨーロッパ原産の帰化植物。早春3月～5月頃ルリ色の美しい花を咲かせる。花は一日で落下してしまう。名前は、実が犬の陰嚢に似ていることからつけられた。

上　：大きく広がって咲いているオオイヌノフグリの花
下左、下右：オオイヌノフグリの花

カンサイタンポポ

【キク科 タンポポ属】

Taraxacum japonicum

見られる場所：大芝生広場

近畿地方以西に分布するキク科の多年草。3月～5月頃に黄色い花を咲かせる在来種のタンポポである。在来種以外にセイヨウタンポポがあり、都市部では単為生殖で年中種子をつけることから分布が広がっている。三木山森林公園では、在来種のカンサイタンポポが元気である。カンサイタンポポとセイヨウタンポポは、総苞外片（そうほうがいへん）がセイヨウタンポポは反り返っていることから区別できる。

上左、上右：カンサイタンポポはセイヨウタンポポと違い、総苞外片（そうほうがいへん）が反り返っていない。
下左、下右：カンサイタンポポのお花畑

キキョウ

【キキョウ科 キキョウ属】

Platycodon grandiflorus

見られる場所：ススキ草原、チガヤ草原、下池周辺

日当たりの良い野原などに生育している。7月～9月頃に青紫色の釣鐘状の花を咲かせる。秋の七草の一つである。また、キキョウの根は生薬として利用されている。

キキョウの花

オミナエシ

【オミナエシ科 オミナエシ属】

Patrinia scabiosifolia

見られる場所：ススキ草原、チガヤ草原、香りの道

日当たりの良い場所にはえる多年草で、高さは1m位になる。夏から秋（8月～10月頃）にかけて黄色い花を咲かせる。秋の七草のひとつ。特に、ススキ草原で見られるオミナエシの黄色い花とススキの穂が同時期に咲く風景は美しい。

上左：高さ 1m 位に成長した満開のオミナエシ
上右：ススキ草原で見られるオミナエシの花とススキの穂のコラボ
下左、右：オミナエシの開花状況

三木山森林公園セルフガイドブック

～兵庫県立三木山森林公園～

編　集　兵庫県立三木山森林公園管理事務所
発行者　公益社団法人 兵庫みどり公社
発行日　令和２年５月３１日
印　刷　ウニスガ印刷株式会社